

■ 認知症高齢者の現状

認知症高齢者については、「認知症高齢者の日常生活自立度」を判断基準として、その状態像に応じてI～Mまでの大きく5つのランクに区分しています。(3ページの参考「認知症高齢者の日常生活自立度」のとおり)

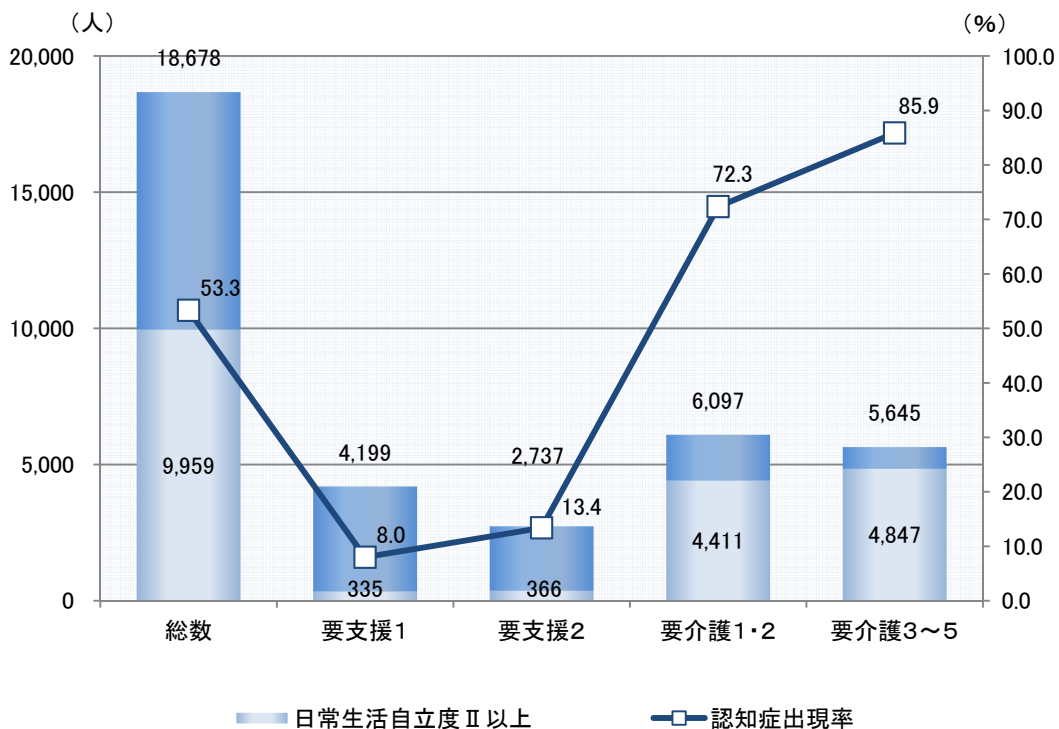
平成26年9月末時点の要介護(要支援)認定者のうち、日常生活自立度がⅡ以上と判定された高齢者は9,959人で、要介護(要支援)認定者全体に占める日常生活自立度Ⅱ以上の認知症高齢者の割合(認知症出現率)は53.3%となっています。

介護度別にみると、要支援認定者の認知症出現率はわずか10%程度であるのに対し、要介護認定者の認知症出現率は70%を超える高い割合となっています。

■ 日常生活自立度Ⅱ以上の認知症高齢者の現状(平成26年9月末時点) (単位:人, %)

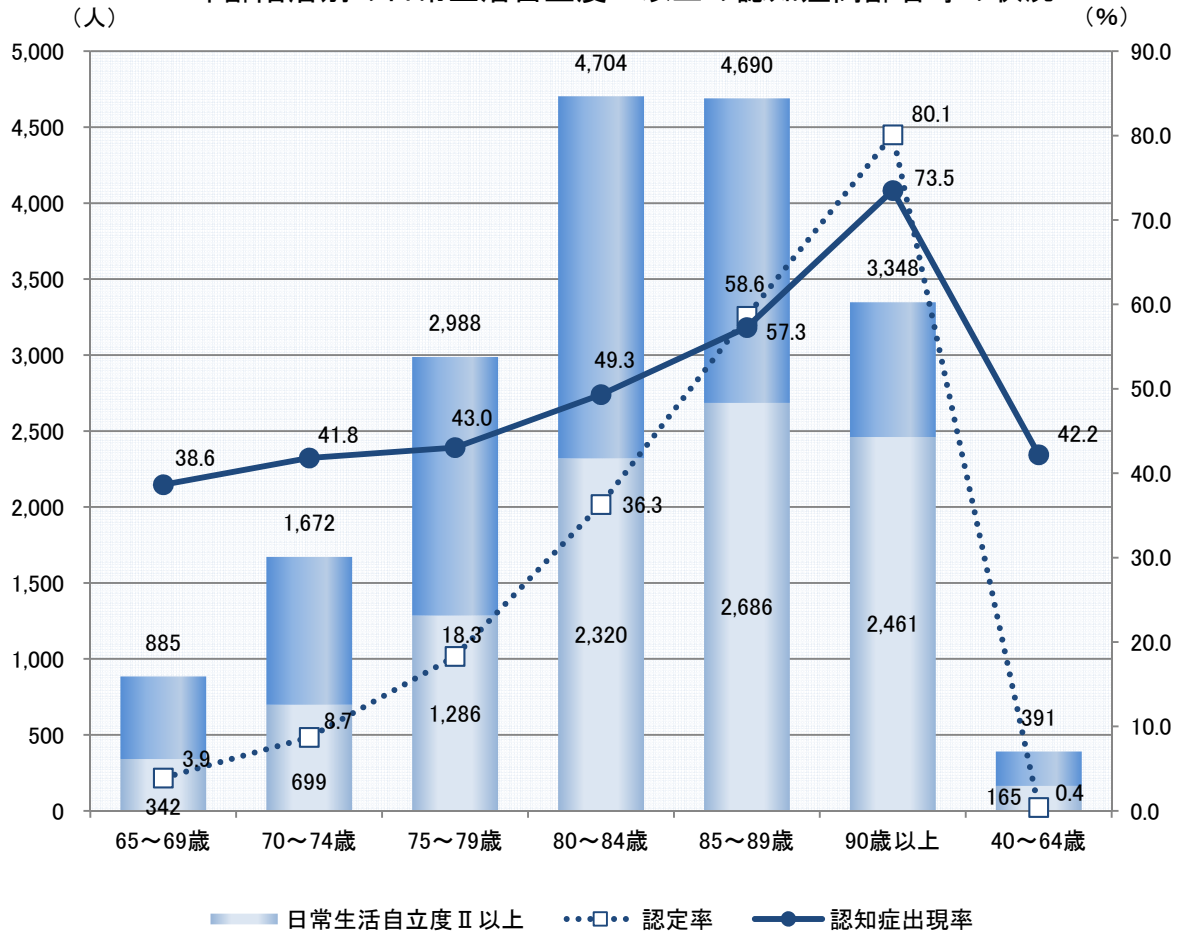
	総数	要支援1	要支援2	要介護1・2	要介護3～5
認定者数(全体)	18,678	4,199	2,737	6,097	5,645
日常生活自立度Ⅱ以上の高齢者	9,959	335	366	4,411	4,847
認定者数に占める割合(出現率)	53.3	8.0	13.4	72.3	85.9

要介護(要支援)認定者と日常生活自立度Ⅱ以上高齢者の現状



また、年齢階層別の認知症出現率をみると、年齢が高くなるにつれて上昇し、特に80歳を過ぎてから急激にその割合が高く、90歳以上では73.5%となっています。

年齢階層別の日常生活自立度Ⅱ以上の認知症高齢者等の状況



■ 年齢階層別の日常生活自立度Ⅱ以上の認知症高齢者等の状況

(単位:人, %)

	65~69歳		70~74歳		75~79歳		80~84歳		85~89歳		90歳以上		40~64歳	
	認定者数 (全体)	自立度 Ⅱ以上	認定者数 (全体)	自立度 Ⅱ以上	認定者数 (全体)	自立度 Ⅱ以上	認定者数 (全体)	自立度 Ⅱ以上	認定者数 (全体)	自立度 Ⅱ以上	認定者数 (全体)	自立度 Ⅱ以上	認定者数 (全体)	自立度 Ⅱ以上
合計	885	342	1,672	699	2,988	1,286	4,704	2,320	4,690	2,686	3,348	2,461	391	165
要支援1	208	15	437	35	882	56	1,265	95	1,028	90	336	42	43	2
要支援2	171	20	276	28	487	64	752	109	661	87	320	53	70	5
要介護1・2	260	142	528	322	907	601	1,523	1,124	1,563	1,218	1,161	924	155	80
要介護3~5	246	165	431	314	712	565	1,164	992	1,438	1,291	1,531	1,442	123	78
認定率	3.9		8.7		18.3		36.3		58.6		80.1		0.4	
認知症出現率		38.6		41.8		43.0		49.3		57.3		73.5		42.2

※ 認定率は高齢者人口に占める認定者数の割合

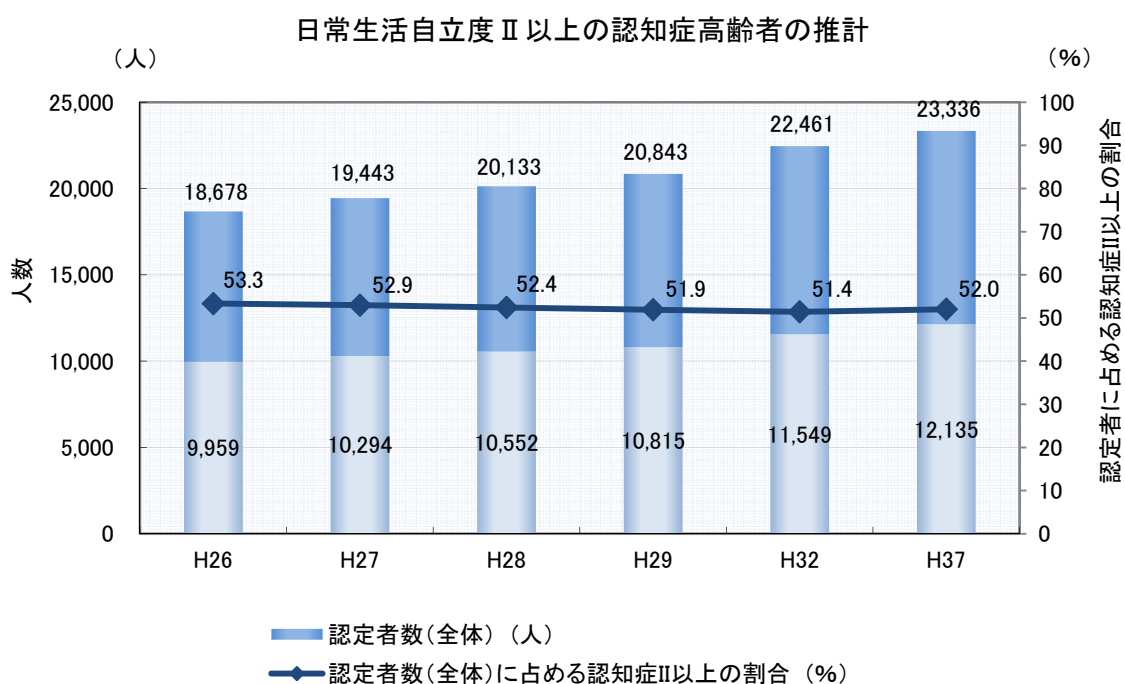
※ 認知症出現率は認定者数に占める日常生活自立度Ⅱ以上の認知症高齢者の割合

■ 認知症高齢者の推計

平成26年9月末時点における要介護（要支援）認定者に占める日常生活自立度Ⅱ以上の認知症高齢者の割合（認知症出現率）が将来にわたって一定であると仮定し、推計した要介護（要支援）認定者数をもとに、平成27年から平成37年までの日常生活自立度Ⅱ以上の認知症高齢者数を推計した結果、平成29年には1万815人、平成37年には12,135人と、増加が続くと予測されます。

一方、認知症高齢者の割合をみると、平成26年の53.3%から平成32年には51.4%まで減少しますが、その後は上昇に転じ、平成37年には52.0%になると予測されます。

また、高齢者人口に占める割合は、平成27年に12.0%、平成37年には14.2%と見込まれ、いずれも全国平均を上回る割合となっています。



■ 高齢者人口に占める日常生活自立度Ⅱ以上の認知症高齢者の割合

区分	H26	H27	H28	H29	H32	H37
高齢者人口(人)	83,582	85,532	86,876	87,786	88,435	85,446
高齢者人口に占める日常生活自立度Ⅱ以上の割合(%)	11.9	12.0	12.1	12.3	13.1	14.2
[参考] 全国の65歳以上人口に占める日常生活自立度Ⅱ以上の割合(%)	-	10.2	-	-	11.3	12.8

※ 高齢者人口は、平成22～26年各9月末日現在の住民基本台帳をもとにコーホート変化率法により推計した数値

※ 参考の全国割合は、国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口(H24.1推計)に、平成22年9月の認知症高齢者割合をもとに推計した数値

■ 要介護(要支援)認定者と日常生活自立度Ⅱ以上の認知症高齢者数の見込み (単位:人,%)

区分	介護度	H26	H27	H28	H29	H32	H37
認定者数(全体)	計	18,678	19,443	20,133	20,843	22,461	23,336
	要支援 1	4,199	4,534	4,880	5,238	5,891	6,062
	要支援 2	2,737	2,806	2,871	2,934	3,049	3,098
	要介護 1・2	6,097	6,389	6,658	6,942	7,693	8,095
	要介護 3～5	5,645	5,714	5,724	5,729	5,828	6,081
日常生活自立度Ⅱ以上の認知症高齢者	計	9,959	10,294	10,552	10,815	11,549	12,135
	要支援 1	335	363	392	421	477	491
	要支援 2	366	378	388	398	416	426
	要介護 1・2	4,411	4,640	4,850	5,070	5,646	5,965
	要介護 3～5	4,847	4,913	4,922	4,926	5,010	5,253
認定者数(全体)に占める認知症Ⅱ以上の割合	計	53.3	52.9	52.4	51.9	51.4	52.0
	要支援 1	8.0	8.0	8.0	8.0	8.1	8.1
	要支援 2	13.4	13.5	13.5	13.6	13.6	13.8
	要介護 1・2	72.3	72.6	72.8	73.0	73.4	73.7
	要介護 3～5	85.9	86.0	86.0	86.0	86.0	86.4

※ 各年9月末時点

(参考)

認知症高齢者の日常生活自立度

ランク	判定基準	見られる症状・行動の例
I	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している。	
II	日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる。	
	II a 家庭外で上記Ⅱの状態が見られる。	たびたび道に迷うとか、買い物や事務、金銭管理などそれまでできたことにミスが目立つ等
II b	家庭内でも上記Ⅱの状態が見られる。	服薬管理ができない、電話の対応や訪問者との対応などひとりで留守番ができない等
III	日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さがときどき見られ、介護を必要とする。	
	III a 日中を中心として上記Ⅲの状態が見られる。	着替え、食事、排便・排尿が上手にできない・時間がかかる、やたらに物を口に入れる、物を拾い集める、徘徊、失禁、大声・奇声を上げる、火の不始末、不潔行為、性的以上行為等
	III b 夜間を中心として上記Ⅲの状態が見られる。	ランクⅢaに同じ
IV	日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする。	ランクⅢに同じ
M	著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする。	せん妄、妄想、興奮、自傷・他害等の精神症状や精神症状に起因する問題行動が継続する状態等